人間関係構築は体験交流で

北海道・標津

―知床の自然・産業・文化を体感―
北海道知床しべつ 感動体験

北海道知床の南に位置する標津町(しべつ)は、人口約5700人、一衣帯水に北方領土「国後島」を望み、左には世界自然遺産の秘境知床半島が一望され、右にラムサール条約登録湿地に指定された丹頂鶴やオオワシなど野鳥の宝庫として名高い野付半島、背後には雄大な牧草地群が広がる大酪農郷が形成されるなど、風光明媚な地です。

北海道らしい雄大で恵まれた自然環境のもと、国内屈指の漁獲を誇る秋鮭やホタテ貝を主力とする漁業、これを加工原料としたイクラ、鮭加工、ホタテ製品などを製造出荷する水産加工業、広大な牧草地で約2万頭の乳牛により牛乳を出荷する酪農業を基幹とした「生産の町」です。

来訪者からは、北海道らしい産業体験や自然体験が可能との評価を頂き、京都、大阪、東京、滋賀、神奈川など全国各地から、小学生から高校生など修学旅行を中心に多くの皆さんを受け入れ、産業や自然を活用したオリジナルのプログラムによる交流体験活動が行われています。

プログラムは、地域の生活や産業、食や遊び（自然）などの地域素材を活用したメニューと、他の地域との差別化を図ろうと、漁協、農協、商工会、観光協会、旅館組合など20団体が連携し「エコツーリズム」事業を展開しています。

また、受け入れの対応では地域の各分野の名人がガイドとなり（事前講習など受講者）体験活動が行われます。

宿泊施設は大規模な施設がないなど不利な点をプラスに転じ、小さな宿ならではの利点を生かした、心のこもった地場産品活用メニューや体験食で初めてとなる漁獲、市場、加工、流通まで一貫して行う高度な衛生管理で取り扱う「ハサップ手法」を学習の場として活用、体験し、地域の人々との交流により学ぶことで、高い学習効果が得られると評価も高まってきており、近年は大学のフィールドスタディとしても活用されています。

また、日本で初めて実現した知床の大自然の中での忠類川フィッシングやイクラ作り、ホタテ貝の貝剥き体験などの食体験。

また、広大な牧草地で多くの皆さんを受け入れ、産業や自然を活用したオリジナルのプログラムによる交流体験活動が行われています。

プログラムは、地域の生活や産業、食や遊び（自然）などの地域素材を活用したメニューと、他の地域との差別化を図ろうと、漁協、農協、商工会、観光協会、旅館組合など20団体が連携し「エコツーリズム」事業を展開しています。

また、受け入れの対応では地域の各分野の名人がガイドとなり（事前講習など受講者）体験活動が行われます。

宿泊施設は大規模な施設がないなど不利な点をプラスに転じ、小さな宿

湿原と縄文文化学習

カヌー体験

スノーシュートレッキング

イクラ作り体験　農業体験(ファームステイ)

ならではの利点を生かした、心のこもった地場産品活用メニューや体験食で初めてとなる漁獲、市場、加工、流通まで一貫して行う高度な衛生管理で取り扱う「ハサップ手法」を学習の場として活用、体験し、地域の人々との交流により学ぶことで、高い学習効果が得られると評価も高まってきており、近年は大学のフィールドスタディとしても活用されています。

また、日本で初めて実現した知床の大自然の中での忠類川フィッシングやイクラ作り、ホタテ貝の貝剥き体験などの食体験。

また、広大な牧草地で

供給システム「地域ハサップ」の取り組みが契機となり活発化が図られました。

このシステムは、国内で初めてとなる漁獲、市場、加工、流通まで一貫して行う高度な衛生管理で取り扱う「ハサップ手法」を学習の場として活用、体験し、地域の人々との交流により学ぶことで、高い学習効果が得られると評価も高まってきており、近年は大学のフィールドスタディとしても活用されています。

また、日本で初めて実現した知床の大自然の中での忠類川フィッシングやイクラ作り、ホタテ貝の貝剥き体験などの食体験。

また、広大な牧草地で

営まれる酪農業の体験コース（ファームステイ）や冬のスノーシュートレッキング、新たに湿原カヌー体験や縄文文化学習を加えるなど、体験地域として魅力化に努めています。

目的や日程、人員に沿った企画やスケジュールの提案もさせていただいており、提案から受け入れまで「標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会」（事務局＝標津町役場商工観光課）が責任をもって対応します。

羽田からは直行便でたったの90分、修学旅行でなければできない、貴重な時を豊かな自然と産業が調和した「交流のまち標津町」で過ごされてはいかがでしょうか。

標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会
〒186-0632　北海道標津町北2条西1丁目1番3号
TEL 0153-82-3011　FAX 0153-82-3011
E-mail:kankou@sibetsutown.jp

岩手・陸中海岸

被災地だから「伝えなければならない責任感」で迎えます
東日本大震災「大津波の体験と教訓」

岩手県田野畑村は陸中海岸国立公園の北部に位置し、「日本一の海岸美」と称される「北山崎」など、恵まれた景観の中に住民が漁業や酪農を営む人口4千人ほどの典型的な農山漁村です。

昨年3月11日に村を襲った大津波は、約40人の死者と行方不明者を出し、住み慣れた家や漁業など生業の全てを奪い去りました。しかし、人的な被害が比較的少なかったのは、明治や昭和の大津波から語り継がれた伝承が教訓として、これまで感じることができる学びの現場が今ここにあります。

■組織と教育訓練

被災後も漁家や農家を中心に85軒の受入家庭があり、約300人の子ども達と交流が可能です。

「体験村・たのはたネットワーク」が受け入れ

人気のサッパ船で漁業体験現場

生産現場の厳しさ学ぶ酪農体験

民泊家庭での夕食作り

うに映るのでしょうか。生徒自らが「心の絆」の必要性について考え、五感で防災への取り組みとして生かされてきた証と言われ、これからも継承されていくことでしょう。

大津波の爪痕が残る現

期的な教育訓練による品質向上を図り、海上保安庁等との連携訓練による安全確保に日々努めています。

■民泊(ホームステイ)

ットワーク」が受け入れ

備いたします。また、宿を出た周辺が直ぐに体験現場という絶好のロケーションにあり、効率的なプログラムが組めます。

お奨めプログラム

◆サッパ船アドベンチャーズ

津波で大きく被災しましたが、この昨年夏から運航を再開し、既に多くの旅行者に楽しまれています。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵が伝わります。

◆郷土料理体験

地元海産物や農産物をおかあちゃんの指導のもと、自らさばいて味わいます。食の大切さや安全性に対する意識向上の効果があります。

◆津波体験ガイド&語り部

東日本大震災により被災し仮設住宅などで生活している住民自らが、津波の脅威、当時の記憶や行動、今に至るまでの体験、絆のありがたさなどについて現地を案内しながら語ります。宿での「語り部」やワークショップについても対応可能です。

語り継ぐ責任を持って臨む「震災復興ガイド&語り部」ガイド

NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・武井
〒028-8402　岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
北山崎ビジターセンター内
TEL 0194-37-1211　FAX 0194-33-3355
E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL http://www.tanohata-taiken.jp/

新潟県・上越市・十日町市

アメリカから訪れた高校生のお寺見学験

高いビルも、広い道路も、整備された公園もここにはありません。越後田舎体験にあるものは、ありふれた山と小さな田や畑。人々が協力し合いながら暮らす生活……。かつて村の中心にあった学校のそのまた山奥の小さな分校。自然とかかわりの少ない人に、人の温かなぬくもりを忘れた人に「越後田舎分校」で、自然と自然のつながり、自然と人とのつながり、人と人とのつながりを考えてほしいと思います。

ブナ林での自然観察

人と人をつなぐ「越後田舎分校」

私たち地域では、民泊（ホームステイ）の受け入れを行っています。長い時間、民家の人と過ごして交流することで何か感じるものがあるようです。

おすすめ体験プログラム・5人＝1400人

民泊（ホームステイ）

協力戸数　400戸×3

米作り

汗を流して米づくりを体験し、自然と人の関係や思いやる心を育てます

漁業体験

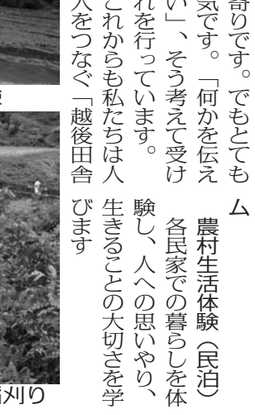
地引網や魚のさばき、干ものづくり、乗船……漁師の普段の作業を体験します

自然体験

自然の中で美しいもの、優しいもの、厳しいものなどを興味深く観察します

自然と人の関係を思いやる稲刈り

汗を流して田植えを体験


雪まつりキャンドル

春山トレッキング（5月）

民泊先わらぞうりづくり体験

漁師の船で乗船体験

越後田舎体験の特徴

①日本海の長い海岸線と、米どころ新潟の広い平野、そして棚田やブナ林がある日本の原風景が残る中山間部を持つ越後田舎体験のエリアは、自然・環境・歴史民俗学習の適地です。

②あらゆる体験プログラムは土地の人がインストラクターとしてかかわります。

③企画コーディネート（手配、連絡、調整、精算）は協議会事務局で承ります。

④広域で仲間が連携、協力して受け入れを行います。

越後田舎体験推進協議会
通常営業時間　8：30～17：30（月～金、祭日・年末年始等休み）＊時間外でも電話してみてください
〒942-0411　新潟県上越市安塚722-3
雪だるま財団内
TEL 025-592-3988　FAX 025-592-3324
E-mail:taiken@yukidaruma.or.jp
URL http:www.echigo-inakataiken.jp/

長野県・南信州

家族の一員になる民泊

5月に咲き誇る梨の花

南信州は中央・南両アルプスの間に天竜川が流れる巨大な谷であり、そこに住む人々の気質は大変穏やかです。当地域では1996年から体験教育旅行を受け入れ、2001年に公社を設立し、現在年間110を超える学生団体を受け入れております。体験プログラムは自然、環境、農業、味覚、伝統工芸、アウトドアスポーツなど多くの分野にわたり、種目数は165種目を数えております。

本物の体験は心をつなぐ一生の思い出

基本的な理念は、地域に暮らす人々の生業やありのままの暮らしの中に共にし、その交流を通して互いに感動し、高まり、そして人間関係の構築の好機となるものが本物の体験であると考えています。

中でも農家民泊は年々受け入れ数も増え続けており、「帰ってきたら朝ごはんを食べるようになった」「野菜を食べるようになった」「息子が久しぶりにいろんなことを話してくれた」などと保護者の方々からの御礼の言葉も数多く届いております。半日、1日、1泊と一つ一つのプログラムがゆったりとしたペースで展開され、しっかり交流することにこうしたエピソードが生まれる背景があります。

また、生徒たちを受け入れる農家の側にとってもそうした学生たちの一生懸命交流しよう、体験構築能力を高めるには絶好のプログラムです。

今最も多い組み合わせは1日目から2日目の午前にかけて農家民泊&農家体験、2日目の午後にアウトドアスポーツ体験を行い温泉旅館での宿泊、3日目は味覚体験や伝統工芸体験からの選択という形です。南信州の人と自然と文化を目一杯体験できる組み合わせです。

人の心温かく、瞳輝く時
感動体験南信州

信州そば打ち体験

信州名物五平餅作り

田植え体験

それが受け入れを続ける動機付けにもなっています。いわば双方にとって貴重な体験交流の場づくりともなっております。

現在農家民泊の受け入れを支える受入農家は南信州14市町村で400軒を超えており、11年度は年間64校9000人を超える生徒たちを受け入れました。一般家庭に泊まることは、互いに気づかう心が生まれ、現在の社会に求められる人間関係構築能力を高めるには絶好のプログラムです。

教育旅行の受け入れにあたって

現在この事業に協力いただいている方々は全体で1千人を超えており、数多くの学校団体が同時に訪れても受け入れ先が1カ所に集中することはなく、いつも新鮮な気持ちで訪れる人々を迎えております。受け入れを始めて15年を経た経験と実績を生かし、安全で教育効果の高い受け入れをすべく励んでおります。

教育あるいは社会に貢献するという誇りと責任を感じ、それを大いなる喜びと捉え、これからも受け入れを続けていきたいと考えております。

株式会社南信州観光公社
〒395-0512　長野県飯田市育良町1-2-1
りんごの里内
TEL 0265-28-1747　FAX 0265-28-1748
URL http://www.mstb.jp/